

# ちようふ環境市民会議

## 第16回定期総会

### 議案書

2024. 5.19 (日) 14時30分～  
あくろす研修室2

#### 議案項目

第1号議案	2023年度事業報告 .....	
	P.1	
第2号議案	2023年度収支報告 .....	P.
	11	
第3号議案	2023年度監査報告 .....	P.
	12	
第4号議案	2024年度事業計画案 .....	P.
	12	

## ■第1号議案 2023年度事業報告

### ○2023年度活動方針

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、活動を楽しく行います。

- ・暮らしを根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。新型コロナウイルス感染症により2020年3月より、生活の自由や行動制限が約3年間続きました。また昨年2月からは、ロシアによるウクライナ侵攻がもたらす「エネルギー資源等の輸入制限」をはじめとして生産構造の変化と世界経済への影響を及ぼしました。先進諸国のCO2排出

による地球温暖化は気候変動や災害・食料危機につながり、私たちの生活を見直さざるをえません。そのような中、環境にやさしい生活・持続可能な社会をめざした暮らしを考えていきます。

- ・調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、環境を考える市民・事業者・団体に向けて活動で得られた情報や知恵を共有できるよう連携して活動していきます。
- ・市民・活動団体・企業等との連携を図るプラットフォームとしての役割を担う上で必要となる、市民向け環境情報の受発信の基地等についても検討していきます。
- ・調布市への予算要望をする中で、前年度に引き続き①環境基本計画を実効性のある計画とするための環境学習のための講座開催②国分寺崖線ウォークイベント事業の業務受託を行います。

ちょうふ環境市民会議が市民との協働の実践を実質的に担い手として位置づけられ、その役割と責任が大きくなっている中、引き続き、若い理事や事務局補助の参加とあわせて人材の確保に努めながら多様で柔軟な視点を取り入れながら、2023年度もプロジェクト(PJ)ごとに事業実施に取り組みます。

これら多岐にわたる委託事業や自主事業を継続していくプロジェクトチーム(PJ)には、多くの会員のご協力が必要です。引き続きの協力をお願いいたします。

- ・今後も継続して環境保全活動を担う人材確保のため組織運営の再構築についても検討します。

※ 「第15回定期総会」はメール配信により書面議決とあわせて対面式の総会を開催させていただきます。

## ○2023年度活動方針にもとづき活動しました

・2023年度は、「新型コロナウイルス感染症」が5月の連休後に感染症5類に移行し、行動制限が解除され、市のイベントをはじめ市民の活動もようやく以前のように開催されてきています。

・一方、ちょうふ環境市民会議が市民団体・事業者・行政と連携をとりながら推進体制を担う市民組織として位置づけられている『調布市環境基本計画』（平成28年度施行2016—2026）で2023年度も「環境基本計画協働推進委託事業」等5事業を市から事業受託し「エコライフ推進プログラム事業」の壁面緑化事業については環境フェア（6/17）が調布駅前広場で開催され、アサガオ種150袋と液体肥料を配布しました。市民会議では独自に丸太切りのタイムトライアルを行い、約40人の参加がありました。

・佐須地域の公有地化した土地活用について、深大寺・佐須地域環境資源管理・活用委託事業の受託により2020年12月までの2年半にわたる暫定使用期間も終了、新たに「農業公園」として整備・活用されはじめていますが、運営については、市民会議とは別の団体が受託しているので、意見をのべる機会や場がありませんでした。

・他に、緑と公園課からは「崖線ウォーク事業」の6年目の事業を受託し、昨年の経験を踏まえてガイド付き1コースのみの実施とし、ガイドウォークを「歴史」「生き物」「樹木」の3コースの他に新たに「地形」の4コースで実施し、「生き物」のみ2班で実施しました。コロナの5類移行でイベントも従来通りの復活もされることも予想されたため、申込期間を長くしました。地形や歴史コースは人気もあり抽選で参加者を選びました。しかし、当日は小雨が時折ふるなど寒さもあり、当日キャンセルがふえました。参加者はガイドの希望もあり定員を各コース13人程度とし、合計。

・2009(平成21)年3月の設立から14年が経ちましたが活動拠点の確保については実現していません。また、事務局長をはじめとした事務局を担う人材の確保は課題として継続しています。

## 1. 組織運営報告

### 理事会 (理事10名 及び監事1名)

- ・定例理事会を隔月に行い年6回開催しました。(その他理事会に変わるメールでの報告配信を行った)
- ・受託事業業務管理については業務ごとに担当理事を決めました。
- ・行政との懇談会(環境政策課及び緑と公園課)は3回行いました。

### 運営会議 (ちょうふ環境市民会議会員)

今年度も運営会議の開催はおこなえませんでした。

### 総会

第15回定期総会はコロナ禍の中5月15日15時より、あくろす研修室3にて代表理事および理事、監事を含め会員20人の出席、委任状18人とネットによる書面議決も含め、総会成立数を確認して開催され、すべての議案が可決され、ました。

コロナ禍での活動の中止等を余儀なくされたこともあり、ちょうふ環境市民会議への関心が薄れ、プロジェクトの担い手の育成が必要です。また、事務局長・事務局員不在の中、事務局の手伝いを頼んでいる状態が続いていることは変わらず、人材の確保が課題のままです。

### 事務局 (事務局長不在 / 局員手伝い1 / その他 会計1)

2023(令和5)年度事業計画の年間進行管理を各理事が分担して行いました。理事会議題案の作成や資料準備、議事録を岡部理事、個人会員・団体会員に対する連絡や行政との連絡調整などについては、引き続き鍛冶さんと有本さんに手伝ってもらいました。また会費管理等会計業務(受託会計含む)事務一切を中原理事が担当しました。

### 会員動向 【2023年度末 会員数】( )内は昨年度実績

個人会員：41 (43) 団体会員：15 (14) 法人会員：4 (4) / サポート会員：3 (4)

## 2. 事業報告

### <自主事業>

#### (1) 交流事業

##### ①雑木林連絡会 (担当：安部・大村)

年間4回の連絡会(安全講習会を含む)を開催しました。第1回5月24日、第2回8月23日、9月15日入間1丁目樹林地での安全講習会、第4回2月15日に開催しました。連絡会では各保全緑地等のナラ枯れ対策や保全活動における課題等について情報交換し、市とも課題の共有ができました。安全講

習会は入間地域福祉センター（座学）と入間町1丁目樹林地（実習）で伐倒の実習との伐採の作業実技について学びました。

今年も、市緑と公園課担当者が各樹林地をウォークスルー形式で、課題を共有することもできました。また、第4回時に昨年に続き市から緑地保全の学習会について提案があり、3月3日（日）10時～11時半たづくり映像シアターにて合同勉強会「都市域における森林の保全と更新～崖線に残された貴重な森のこれからを考える～」について、講師：島田和則氏（国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所 多摩森林科学園チーム長）で入間2丁目樹林地の今後の整備について学びました。

雑木林保全についてだされていた課題は、若葉町3丁目緑地となりの開発に伴う、キンラン等の貴重種の保全や開発に対する市の対策についての意見交換や、雑木林管理計画の進捗についての意見交換（ナラ枯れ対策を含む）、市から提供物品購入について等でした。

また環境市民会議の企画運営による「調布がいせんウォーク2023」にも実行委員会の段階から連絡会の保全活動団体が参加し、当日もスタッフの中心となって協力しました。

紙媒体の「調布の自然だより」が2020年1月に終刊となったため、同年2月から環境市民会議ホームページに「〇月の雑木林」で、連絡会メンバーの4団体が毎月、記事と写真を投稿。広報・情報交換・記録の場として定着してきました。掲載団体が増えることを期待しています。

## ② イベント参加・活動PR

### ・アースデイin調布2023（担当：紺野）

コロナ禍により開催されませんでした。

### ・調布市主催「環境フェア」（担当：里）+ 応援スタッフ理事

①6月17日（土）調布駅前広場にて開催され、アサガオ種の配布と液体肥料の配布の他、丸太切りのタイムトライアルを行いました。

②“丸太切り”イベントは幅広い年齢層の参加があり、例年通りに好評でした。

### ・多摩川自然情報館祭り

コロナ禍により開催中止

### ・多摩川クリーン作戦（磯邊、里）

11月12日 市主催行事に参加しました。

## （2）活動推進

・昨年に引き続きナラ枯れの学習会や、実際の雑木林保全についての現地見学会を開催を予定していましたが、企画ができませんでした。カニ山からの案内で、10年前に種子を蒔いて育った樹の「移植祭」への案内がありメンバーに参加をよびかけるなど、団体の活動への支援が主なものでした。

## （3）広報事業（担当：事務局）

### ・ホームページ（ブログ）HP基本管理1名(委託)。

4つの雑木林保全団体が毎月作業報告やフィールドのようすを写真と共に掲載しています。

その他、講座の募集時にはチラシを掲載し、申込フォームを設定しました。

アースデイ用に「ちょうふ環境市民会議」を紹介する動画を作成しましたが、コロナ禍の影響もあり環境市民会議そのもののPRはあまりできませんでした。  
また、リーフレット作成については、見積を1件とったものの具体的に内容等についてどのようにするかPJで検討していく必要があります。

#### (4) 調査研究

今年度も企画運営の人員不足のため実施できませんでした。

#### <受託事業>

##### (1) 雑木林ボランティア講座運営事業（担当：里・尾辻・中原＋補助スタッフ2名）

6回の講座開催を企画しました。長年講座を担当していた小林講師が体調悪化のため受け持ち講座（第1回目および第6回目）講師を変更実施しました。

##### 当初計画と実績成果

① 第1回目講座講師は尾辻義和氏に変更して実施、第6回最終回のまとめ講座は午前のバスツアーで凸凹の森、若葉の森を見学し講師に小池弘志氏に依頼し、午後にはまとめのワークショップをコーディネーター安部氏に「調布の雑木林の現状と課題」をテーマに実施しました。

##### ②募集と受け付け

○年度初め4月の市報に掲載＋チラシを作成し配布、市民会議や加盟団体のHP等によるPRや受講生OBにも拡散を依頼しました。

○申込受付(募集20名)は昨年同様に利便性・効率化等を図るべく“市民会議のHP内にQRコードを設け”原則、電子受付に変更しました。

③コロナ禍による生活スタイルの変化によるものかは不明ですが、参加者の環境保全の意識は年々高くなっているように感じられました。

講座終了後、カニ山他既存団体へ3名の参加者があり、活動見学もありました。

引き続き講座を通じて受講生の参加意欲増すように努めていきます。

##### (2) 環境保全団体・市民の交流事業（担当：児島）

##### 「第15回環境活動交流会 ～深大寺・佐須地域の魅力を再発見～」

2024年3月16日（土）に参加団体10団体、参加人数27名の方が佐須ふれあいの家に集まり、東京都立大学 菊地俊夫名誉教授による海外のコミュニティガーデン（開放的地域農園）の紹介もまじえ農の風景講座として興味深い講演を聞くことができた。講演の後、現在佐須地域でコミュニティ農園を行いながら新しい都市農業のあり方を模索している地元農家の相田直人さんの案内で、佐須農地の現状の説明を受けながらカニ山まで歩いた。カニ山では各参加団体から活動概況の説明があり、おいしい出前コーヒー等を頂きながら各団体間や参加者が懇談を行い楽しく交流が行われた。

今回初めて参加のNTT東日本のビジネスイノベーション部まちづくりコーディネーター担当者が、入間のNTT研修センター内で生ゴミ→バイオガス発電→液肥化の研究をしているとの報告があり、新たな分野とのつながりの可能性が出てきた。

### (3) 自然環境学習事業（担当：磯邊・里・安部）

調布の自然について子どもたちや市民に知ってもらうことを目的として事業を継続しています。

#### 第1回 自然観察会「夕暮れの生き物観察会」

実施日：2023年8月21日（月）天気 曇り、気温28℃

15時45分受付～解散 17時15分

実施場所：深大寺自然広場 野草園駐輪場集合

目的：子どもたちを対象に、身近な「カニ山の自然」を知ることが目的とする。

樹液に集まった昆虫や葉っぱや草むらに隠れる生き物などの生態を観察する。

参加者：小学生7人未就学児2人（保護者9人）計18人

市報8月5日号掲載により、13日を締め切りとして募集を行った。小学生10人を募集したところ、9組の親子から申込があった。未就学児3人がふくまれており市と協議後、今回は引き受けることとしたが、保護者付きを依頼した。1組が辞退、1組が体調不良でキャンセルとなった。

講師：石川和宏氏（環境部門自然環境保全分野技術士）

スタッフ：磯邊・紺野・里・安部(4名とも環境市民会議会員)

総括：昨年と同様、夕方の開催とした。まだ明るい中で集合だったので集合時間前から駐輪場・トイレ横の木に集まったヨコヅナサシガメの話の聞くことから始まった。日中の暑さを避けるため「ムシたちは葉の裏にかくれる」など広場でも専門的な話を子どもたちも保護者も熱心に説明をききビーティングネット等に落ちた虫を観察した。身近なカニ山に自然がありその自然の中で専門家にすぐに昆虫等の名前や生態をきくことができたことがよかった等との感想がよせられていた。合計30種類の昆虫と爬虫類が観察できた。応募も多く自然観察に関心があることがわかったが、未就学児の参加希望も多く、今回は市と協議しながら参加を受け付けたが今後の課題ともいえる。暑い夕方開催だったがまだ明るさも残っていたため、事故なくイベントを終了することができた。来年度は夜間開催も実現をめざしたい。

#### 第2回 2024年2月23日（金）14:00～16:00 あくろす会議室1

環境保全学習「樹木・森の力、1本の木から知るカーボン・ニュートラル」～樹木・森がもたらす力とは、1本の木がもたらすカーボンニュートラルについて学び、私たちができるところを考えませんか～

目的：調布市内には、国分寺崖線他の樹林地で保全活動を行っている活動団体が市内に7団体ある。1本の樹木のちからや森のちからが実際にどのようなものか、具体的に数値として知ること、活動団体や市民が、樹々の保全の大切の認識を深めていく学びの機会とするため、「樹木・森の力～1本の木から知るカーボン・ニュートラル～」とした学習会を企画した。身近な1本の木の数値的な具体的に知りながら、調布の緑の保全にむけての理解を得る機会にし、市民との協働で脱炭素社会の実現の一端となる講座とする。

参加者：18人（他講師1人、スタッフ2人、市職員2人）計23人

（応募者：11人、3月5日～17日まで募集）

講師：渡辺 誠 さん 東京農工大学農学部環境資源科学科准教授

スタッフ：中原彰子・安部宝根（2名とも環境市民会議会員）

内容：講師からパワーポイント資料に基づき講義をうけ、質疑・意見交換を行った。

1. 地球温暖化とカーボンニュートラル：二酸化炭素濃度の主な原因が、人口増加による化石燃料の増加と燃焼に伴う窒素酸化物やオゾンなどの大気汚染が問題になっている。日本も締結したパリ協定で2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにするカーボンニュートラルの実現を表明している。人間活動による温室効果ガス排出量の減少と森林管理等に伴う二酸化炭素吸収量の増加の差し引きゼロをカーボンニュートラルとする。

2. 樹木や森林の役割：樹木の成長＝大気中のCO<sub>2</sub>固定となり、成長量は光合成量-呼吸料-枝葉の脱落量となり枝や葉、根など土中にもCO<sub>2</sub>を保有している。大気中の二酸化炭素だけでなく微生物・動物の呼吸や落葉落枝の土壌へのリターンで炭素貯蔵をしている。植物の根が土壌を保持し、植物がないと土壌が流れる。生態系の保持が大切。光合成によってCO<sub>2</sub>を吸収した樹木は、バイオマスとして木材で住宅や家具として利用されることで大気に戻らず固定され続ける。木材をしっかりと使い伐採後は植林が大切。

3. 役割を邪魔する環境問題（対流圏オゾンを例に）：

オゾンは存在する場所によって生物に与える影響が異なる。1900年代からオゾン濃度の増加が続き、植物の成長や光合成などの比較をオゾンを除去した対照区と外気そのままのオゾン区でのブナによる暴露実験をみると葉の可視障害で葉緑素が分解され変色していたり、成長も遅くなるなど樹種によってオゾンの感受性は変化あることがわかった。感受性が高いのがポプラ・ブナ・ケヤキ・スダジイ・アカマツ・カラマツ、低いのがミズナラ・マテバシイ・タブノキ・黒松・スギ・ヒノキである。日本の樹木はオゾンの悪影響を受けているので、科学的根拠に基づいたオゾン濃度の削減が必要。

総括：市内の雑木林の保全活動を7団体が担っているが、自身の活動がカーボンニュートラルにどのような影響をもたらしているのか、1本の木がもつ力とカーボンニュートラルについて学びながら環境保全についてどのような貢献ができるのか、考えることができた。

#### （4）調布市環境基本計画協働推進事業

##### 1. 環境リーダー等育成のための仕組みづくりの検討結果に基づく環境講座の運営

（担当：大村）

小学生とその保護者が再生可能エネルギーを学ぶ体験型ワークショップ「環境講座2023 自然のチカラで電気をつくろう」（全2回）を実施しました。親子がともに楽しく学び、作業することを通じて、今の世代と未来世代が調布と地球環境への意識を高め、暮らしの中で「できること」を見つけるのがねらいです。2020年度に始めた本講座は、改善を重ねながら、2023年度は4年目を迎えました。

講師は、多摩市立小中学校の総合学習授業で指導の実績がある小林昭一氏。企画・運営スタッフとして、市民会議の法人会員である（一社）えねこや・（一社）調布未来のエネルギー協議会の協力を得ました。

受講者は市内在住または在学の小学校3年～6年生とその保護者とし、合計約20名（10組）を募集。応募締め切り日に定員に達しなかったため、募集期間を1週間延期し対策を講じた結果、26（12組）の応募があり、全員を当選としました

### 第1回 風力発電装置の工作と体験など

11月12日（日） 13:30～16:30

実施場所：染地ふれあいの家

受講者：21名（小学生12名 保護者9名）

- ・スライドによる地球温暖化説明「シロクマさんがこまっていること」 スライドをA4判5枚にモノクロ印刷して配布
- ・小型風力発電装置をつくるワークショップ → 屋上で発電・蓄電を体験。
- ・「断熱ボックス」体験 材料による断熱効果の違いを手のひらで実感
- ・「使用電力比べ」 スマホからヘアドライヤーまで身近な家電の使用電力を知る
- ・ボードゲーム「地球を救う作戦会議」地球に優しい暮らし方とは？ 答えを出し合い確認

### 第2回 水力発電装置の工作と体験など

11月19日(日) 13:30～16:30

実施場所：佐須ふれあいの家

受講者：19名（小学生11名 保護者8名）

- ・小型水力発電装置をつくるワークショップ 水車を組み込んだ発電・蓄電装置を佐須用水に設置 → 発電・蓄電を体験
- ・太陽光発電装置と蓄電池、断熱性能を備えて自然エネルギーによる暮らしを体感できるトレーラーハウス「移動式えねこや」を見学。会場に近い祇園寺駐車場まで受講者を引率して移動。
- ・超小型太陽光発電+蓄電装置の見本を示して、仕組みや組立て方を説明。本来は、この日にキットとして全員に配布し、自宅で組み立てて発電+蓄電を体験してもらう予定だったが、材料の調達に手違いが生じ、当日欠席者を含む3名には後日、追送。

### 【成果】

以下のような点から、総じて所期の目的を達成できたと思われれます。

- ・自分がつくったから感動 風力発電の風車や水力発電の水車を試行錯誤しながら工作し、それらが回り始め、発電機に接続された電球が光ったときの感動。こうした体験によって受講者は、風や水の力で電気が起きることを、与えられる知識としてではなく、自らの五感でしっかり受け止めていました。終了後のアンケートからも、そのことがうかがえます。
- ・大切さを実感 身近な家電の消費電力を比べると、電気を熱に変えるときに大きなエネルギーが要ることに気づき、断熱材の効果を手のひらで感じ取る体験から、エネルギーを逃がさずに使う設備の大切さを実感。
- ・広がり深まる体験 太陽光発電装置と蓄電池を実装した移動式えねこや見学が復活したことで、受講者は風力・水力・太陽光という三方式の再エネ発電を体験。今年度はさらに、小型太陽光発電パネルと充電用電池の組み立てキット、充電機で点灯する小型イルミネーションを、講座内で説明したうえ、接続方法などの説明書を添付して自宅に持ち帰ってもらいました。

太陽光パネルによる発電は光量が十分なら即発電するため、風力・水力に比べて工夫の余地があまりありません。今年度は、接続の仕方を学ぶ必要がある蓄電→点灯までを経験することによって、受講者が自然エネルギー利用の実際により近い学びをすることを目指しました。事実、「息子は天気が良いと、登校前に太陽光パネルをセットして出かけ、帰宅すると充電済み電池でゲームなどして楽しんでいます」との連絡を保護者からいただきました。

【課題】昨年度来の課題が解決できないまま、持ち越しました。

- ・暮らしの中で 会場外へ出る移動式えねこや見学に時間を要したため、保護者向けの「断熱リフォーム」セミナーができなかったのは残念でした。生活者である保護者と暮らしの中でできることについて話し合う機会を設けることが必要です。
- ・佐須用水での発電を地域の皆さんと 佐須用水の水力発電装置を暗くなるまで現場で稼働させ、簡単なイルミネーションを点灯し、ご近所の皆さんと楽しむことはできないでしょうか。佐須用水が国分寺崖線の湧水を水源とする、身近な「水資源」であることも意識してもらえらると思われまます。

## (5) 国分寺崖線ウォークイベント事業

(担当：大村・安部・神山・児島・鍛冶・磯邊・荒井)

2023年11月26日（日）7時50分～14時（受付8時30分～9時10分、到着13：00）

国分寺崖線の保全活動をひろく市民に周知し、人材育成と環境教育の一環等を目的として昨年度と同様に事業が採択され、11月26日(日)7時50分～14時に気温7度、小雨が時々降る中実施しました。雑木林連絡会のメンバーを中心に企画運営のための7回の実行委員会の他、実踏やスタッフ説明会等を開催し「安全確保」を重点にしたスタッフ配置をし安全確保を第一にし、大学生・高校生のボランティアも各コースに配置できました。実行委員会では、コースについて検討し、昨年と同様の約8.3kmのコースとし、仙川駅前公園を出発点とし、ゴール地点をカニ山とし、ガイドツアーを「地形コース」を増やすことができました。歴史1コース、生き物2班に、樹木医を講師とした樹木コース、地形コースの4コースとしました。受付時間は8時半から9時までとし、かに山ゴール地点には13時半までに全員が到着解散としました。気温の低い中、カニ山でのチャイや焼き芋がほっと一息つけていました。

参加者は当日体調不良等でキャンセルもありましたが、大人49人、子ども12人の合計61人の参加となりました。生き物コース2班で24人（11世帯大人13人、子ども11人）、樹木コース11人、地形コース10人、歴史コース16人（大人15人、小学生1人）でした。

### <総括>

新型コロナウイルス感染症の5類移行になった中での開催となり、他イベントも開催が再開され実施時期が重なっていたが、地形コースを新たに設けるなどして関心の高まりは応募多数より感じられました。開催当日までは暖かい日が続いていたが当日になって急に小雨が時折降る寒い

日となり寒さ対策が必要となったため、事前に参加者には伝えておいたものの当日キャンセルなどもあり断った人もいた中残念な結果となりました。トイレの場所が限られており、例年使用しない若葉図書館のトイレを拝借しましたが、図書館から事前に知らせて欲しいとの申し入れがあったり、実篤記念館のトイレを借りているものの、今年は東部公民館や柴崎のコープのトイレを借りるなど寒さのためのトイレ使用回数が多くなり、今後の課題の一つでもありお、事前に使用依頼をする必要がありました。子どもたちは8kmを完走できていましたが、一人寒さのせいかわれてしまったようで感想がよせられました。前年同様、つつじヶ丘公園での梅ジュース・キャンディでの接待は、子どもたちも喜んでいました。紙コップを準備して各自で受け取ることとし、チョコレート等は個別包装を用いコロナ対策をしています。カニ山においても飲み物汁物の提供は中止し焼き芋と焼きマシュマロを一人ずつで受け取るように工夫するなどの対応をとり、結果無事故で安全に実施することができました。参加者からもつつじヶ丘公園やカニ山での接待は好評でした。市民が自然に親しむ機会の提供や国分寺崖線の成り立ちや地形、文化的・歴史的背景、保全活動の様子、生き物のことがよくわかったなど、高い評価が得られ、当初の目的にかなった事業となり、今後もこのイベントの継続が必要と考えます。

受付はスムーズにいきましたが、今回、申込期間を長くしましたが、キャンセルも多数でて繰り上げ等を行うなど再連絡など事務手続きが煩雑になり、1名の記入漏れがありました。名簿作成の課題と、配付資料は1人1部とすることとしていましたが、歴史の資料が足りずスタッフへの周知の徹底と余分の部数の印刷が必要でした。

今年度は、各コースにボランティアスタッフ（高校生2人と大学生3人）と、保全団体活動メンバーが各コースにつくなど、必ず2人のスタッフが各コースにつくことができ安全を確保できました。ボランティアスタッフは、市民活動支援センターでの応募よびかけと、地域活動に関心のある大学生が友人紹介をしてくれたことで集めることができ、若い人の参加は心強いものになりました。ただ、樹木コースがガイドが後ろむきで案内し、曲道を通り過ぎたため、つつじヶ丘公園への立ち寄りをパスしてしまったことは課題です。

今年度は、カニ山の活動紹介を含め、各活動団体の紹介をつつじヶ丘公園ではパネルを掲示するなど、活動紹介にも力をいれました。熱心さのあまり予定時間を過ぎての案内もあり時間厳守が必要です。

\*上記（1）～（5）の受託事業はプロジェクト方式で運営しました。

■第2号議案 2023年度収支報告				[自2023年4月1日 至 2024年3月31日]		
				単位：円		
				予算	決算額	
収入	活動準備金			1,251,276	1,251,276	前年度繰越金
	会費	正会員 個人		40,000	32,000	
		正会員 団体		14,000	14,000	
		正会員 法人		12,000	12,000	
		サポーター 個人		2,000	1,000	
		小計		68,000	59,000	
	事業	自主事業		10,000	0	
		受託事業		1,797,400	1,797,400	環境学習事業/崖線ウォーク
		小計		1,807,400	1,797,400	
	寄付金			260,000	298,970	受託事業関連：224,970
	雑収入			0	10	利子
		収入合計		3,386,676	3,406,656	
支出	事業費	自主事業	交流事業費	180,000	9,000	雑木林連絡会
			活動推進事業費	80,000	0	
			広報事業費	200,000	75,161	HP維持管理 ネットメイ
			調査研究・学習費	20,000	10,000	データ収集管理
				480,000	94,161	
			受託事業	1,797,400	1,797,400	環境学習事業/崖線ウォーク 事務局人件費含む
			小計	2,277,400	1,891,561	
	管理費	旅費交通費		33,000	34,000	理事会等交通費
		会議費		3,000	2,250	総会・理事会資料代
		通信費		2,000	0	
		事務用品・消耗品		30,000	400	
		雑費		10,000	220	
		事務局人件費		44,000	44,000	会計 メール管理
		小計		122,000	80,870	
		支出合計		2,399,400	1,972,431	
特別	記録誌積立			5,000	5,000	
会計	什器備品積立 (カメラ等電子機器)			10,000	10,000	
		小計		15,000	15,000	
次年度活動準備金				972,276	1,419,225	
特別会計積立金累計						
			2022年度まで	2023年度積立	累計	
	記録誌積立			50,000	5,000	55,000
	什器備品積立			40,000	10,000	50,000

## ■第3号議案 2023年度監査報告

2024年 4月 16日、会計担当理事の立ち会いのもと、監査を行いました。

1. 2023年度収支報告に相違はありません。
1. 領収書等証票類に間違いはありません。
1. 業務執行は適切に行われています。

2024年4月16日

監事 杉山 典子

## ■第4号議案 2024年度活動方針事業計画（案）

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、活動を楽しく行います。

- ・暮らしを根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。新型コロナウイルス感染症により2020年3月より、生活の自由や行動制限が約3年間続きました。また2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻がもたらす「エネルギー資源等の輸入制限」をはじめとして生産構造の変化と世界経済への影響を及ぼしています。さらには、イスラエルのパレスチナ侵攻など世界各地での紛争や戦争の増加、森林火災や洪水の勃発等の異常気象による災害も多発して「地球沸騰化」ともいわれています。先進諸国のCO<sub>2</sub>排出による地球温暖化や私たちの豊かな生活の希求が気候変動や災害・食料危機をもたらしています。私たち市民一人ひとりの生活から見直し、環境にやさしい生活・持続可能な社会をめざした暮らしを考えていきます。
  - ・調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、環境を考える市民・事業者・団体に向けて活動で得られた情報や知恵を共有できるよう連携して活動していきます。
  - ・市民・活動団体・企業等との連携を図るプラットフォームとしての役割を担う上で必要となる、市民向け環境情報の受発信の基地等についても検討していきます。
  - ・調布市への予算要望をする中で、前年度に引き続き①環境基本計画を実効性のある計画とするための環境学習のための講座開催②国分寺崖線ウォークイベント事業の業務受託を行います。ちょうふ環境市民会議が市民との協働の実践を実質的に担い手として位置づけられ、その役割と責任が大きくなっています。今年度は環境基本計画の改訂にむけてのワークショップの企画運営等も担いながら、引き続き、若い理事や事務局補助の参加とあわせて人材の確保に努めながら多様で柔軟な視点を取り入れながら、2024年度もプロジェクト(PJ)ごとに事業実施に取り組みます。
- これら多岐にわたる委託事業や自主事業を継続していくプロジェクトチーム（PJ）には、多くの会員のご協力が必要です。引き続きの協力をお願いいたします。
- ・今後も継続して環境保全活動を担う人材確保のため組織運営の再構築についても検討します。

※ 「第16回定期総会」はメール配信により書面議決とあわせて対面式の総会を開催させていただきます、15時半より茶話会を開催いたしますので、多くの会員のご参加をお待ちしています。

## 1. 組織運営

### 理事会（理事9名 及び監事1名）

- ・定例理事会の開催。
- ・行政との懇談会（環境政策課及び緑と公園課）では市民ならではの企画を活かした事業提案や行政に対する要望等について話し合いをします。行政施策への提言も行います。

### 運営会議（環境市民会議会員）

理事以外の会員の意見を取り入れる場として運営会議を開きます。

### 総会

年1回開催。

### 事務局（事務局員不在・会計1名）

行政との窓口、その他事務一切を担える方を引き続き募集しています。

## <自主事業>

### （1）交流事業

- ・各種イベント参加による、ちょうふ環境市民会議の活動紹介と交流
- ・コーディネート活動（雑木林連絡会事務局 その他活動支援など）

### （2）活動推進事業及び支援事業

- ・前年度「調布の自然学習ボランティア」の会からの寄付金を活用して子どものためのワークショップの開催を引き続き検討していきます。
- ・市内の環境保全活動団体に対して基本2万円（上限3万円）とした支援事業を行います。

### （3）広報事業

- ・SNS（Facebook以外にもTwitter、Instagramも連動させる？）をベースとした広報活動。年に2回程度のタイミングでHPに記事を掲載し、環境市民会議のページのみならず、Facebook調布交流会等、他のグループにも随時発信し、存在をアピールします。  
それにより若い新規会員の獲得を目標にします。MLも継続。事務局補助員に依頼して、メルマガ形式の情報発信を毎月できるようにします。  
またイベントごとにYoutubeを配信予定。  
「ちょうふの自然だより」の冊子化は継続します。  
「ちょうふ環境市民会議」のリーフレット作成とホームページの充実を検討していきます。

### （4）調査研究活動（学習会他）

- ・深大寺・佐須の里山保全、また、崖線樹林地の緑地保全や樹林の継続的な保全についての共通認識をもつために自主事業の一つとして他の環境保全団体の視察等を行う予定です。

### （5）提言活動

- ・環境基本計画の実施状況等のみならず、環境全般について会員が得た情報の中から課題となる事項を取り上げ政策提言等行います。

## <受託事業>

### (1) 「環境講座 2024」の企画運営事業

調布市環境基本計画の施策として位置付けた「環境意識の醸成」や「学びと活動体験機会の充実」の具体的な取組として、「幅広い市民を対象とした環境イベントの開催」や「小中学生への環境活動機会の提供」を重点プロジェクトとして実施することとしている。この取組を市民協働で実施するため、「環境講座 2024」を実施します。

### (2) 雑木林ボランティア講座運営事業

○新型コロナ感染は落ち着いていますが、引き続き感染防止策を図りつつ、5月18日から全6回の講座カリキュラムで実施予定です。

○4月5日号の市報に募集掲載し・チラシを作成、配布による広宣のほか市民会議HP等での講座PR・拡散を行います。

受付は4月8日～4月22日まで原則として市民会議HPにて実施。

### (3) 環境保全団体・市民の交流事業

市内における環境保全への取組の理解，推進を図るため，市民・事業者・団体間の連携を推進し，次の各項に掲げる業務を行います。

### (4) 環境保全活動・環境学習支援事業

地球温暖化対策に関する市民の行動変容に資する取組や，生物多様性に富んだ優れた自然を市民の環境学習の場として活用する取組を実施することにより環境学習事業を推進するため，次の各項に掲げる業務を行います。今年度も、子ども対象の事業または時宜にあった大人向けのイベントもしくは学習会を企画していきます。

### (5) エコライフ推進プログラム事業

パートナーシップにより，市内における市民による環境保全活動をはじめとした自然環境保全意識，地球環境保全意識の普及啓発の推進を図るため，次に掲げる事業を実施します。

ア 壁面緑化啓発事業

### (6) 国分寺崖線ウォーク

実行委員会による企画運営で12月上旬か11月下旬の日曜日に実施予定です。コース設定等、実行委員会で検討していきます。

■第5号議案 2024年度予算 (案)				[自 2024年 契約日から 至2025年3月31日]		
						単位: 円
			前年決算額	24年予算	内訳	
収入	活動準備金		1,251,276	1,419,225	前年度繰越金	
	会費	正会員 個人	32,000	35,000		
		正会員 団体	14,000	14,000		
		正会員 法人	12,000	12,000		
		サポーター 個人	1,000	1,000		
		小計	59,000	62,000		
	事業	自主事業	0	0		
		受託事業	1,797,400	1,660,000	環境学習事業/崖線ウォーク	
		小計	1,797,400	1,660,000		
	寄付金		298,970	250,000		
	雑収入		10	0		
		収入合計	<b>3,406,656</b>	<b>3,391,225</b>		
支出	事業費	自主事業			雑木林連絡会/環境フェア/ 関連団体等事業支援	
		交流事業費	9,000	220,000		
		活動推進事業費	0	50,000	子供向けイベントなど開催	
		広報事業費	75,161	200,000	HP維持管理 広報活動 初ドメイン リーフレット印刷 PR動画制作	
		調査研究費	10,000	20,000	データ収集 学習事業	
			94,161	490,000		
		受託事業	1,797,400	1,660,000	事務局人件費含む	
		小計	1,891,561	2,150,000		
	管理費	旅費交通費	34,000	34,000	理事会出席交通費	
		会議費	2,250	20,000	総会関連 理事会資料等	
		通信費	0	2,000	資料郵送等	
		事務用品・消耗品	400	30,000		
		雑費	220	10,000		
		事務局人件費	44,000	44,000	会計 M/J管理	
		小計	80,870	140,000		
		支出合計	<b>1,972,431</b>	<b>2,290,000</b>		
		差引 (収入-支出)	1,434,225	1,101,225		
特別	記録誌積立		5,000	5,000		
会計	什器備品積立		10,000	10,000		
		小計	15,000	15,000		
	次年度活動準備金		<b>1,419,225</b>	<b>1,086,225</b>		